

# MEIJI MURA

明治村だより Vol.69 2012 Autumn

CONTENTS

秋の特別展示  
 錦絵に見る明治の乗物 ..... 2  
 鉄道の鉄のふるさと 御料車の台枠・輪軸の鉄 ..... 6  
 A La Meiji-mura ..... 8  
 秋の催しもの ..... 10



## NEWS

### 明治村は公益財団法人に認定されました!

日頃は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。さて、当博物館を運営する財団法人は、愛知県知事より公益財団法人の認定を受け、平成24年4月1日付で「公益財団法人明治村」として新たな一歩を踏み出しました。

今後は、主に明治時代につくられた60を超える歴史的建造物等をより多くの人々に理解してもらうため展示公開の機会を増やし、歴史や文化財等に親しみ豊かな感性を育成し、文化の継承と発展に寄与する所存でございます。つきましては、今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年4月1日

館長 鈴木 博之



表紙について



「江戸橋夕暮富士」 小林清親 画  
 橋の親柱に「えどばし」と書かれていることから、隅田川に合流する日本橋川にかかる江戸橋付近の情景であることがわかる。川面の表現には清親が得意とする光線画の技法が十分生かされている。文明開化を象徴する、川面にゆらめいている瓦斯灯のあかりと、江戸の名残をとどめる西側の河岸とを対比しているのも興味深い。

●小林清親 (こばやしきよちか)  
 弘化4 (1847) 年~大正4 (1915) 年  
 「最後の浮世絵師」「明治の広重」などとも称される。江戸生まれ。文久2 (1862) 年、父の死に伴い、家督を相続し、旗本として幕府に仕える。清親の作品が世に知られるようになったのは、明治9年に「光線画」として、いわゆる「名所」を描いた作品群が出版されてからである。しかし「光線画」は明治14年に火災を描いた作品が最後で、以降、風刺画や歴史画を発表していった。一世を風靡した清親の「光線画」の表現方法は、師事した写真家・下岡蓮杖、河鍋晩斎、柴田是真、ワグマンなどから、学び取っていたのではないかと考えられていたが、いずれも確証がなく、独学ではないかという考えが、近年は大勢を占めている。博物館明治村では、小林清親の作品130点以上を収蔵し、折に触れ、展示をおこなっている。



平成24年9月14日発行  
 「明治村だより」第69号 (平成24年秋)

発行 博物館明治村  
 〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
 電話 (0568) 67-0314  
<http://www.meijimura.com>  
 製作 株式会社 DNP 中部

「明治村だより」第70号発行のお知らせ  
 発行時期 平成24年12月中旬(予定)  
 申込方法 「明治村だより」第70号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

# 錦絵に見る明治の乗物

明治村には一〇〇〇点を超える錦絵資料が所蔵されています。この資料の中から十月六日(土)より三重県庁舎特別展示室において「乗物」に関連する作品を中心に、錦絵の魅力をご紹介します。

多色摺りの木版画である「錦絵」は明和二(一七六五)年に鈴木春信という絵師によって確立されました。それまでの単色版画に対して「錦のように美しい」ということから「錦絵」と呼ばれたこの多色摺り木版画は、版木に紙をあてる際の目印「見当」を発明したことで、一枚の紙に何版も重ねることが可能となり出来上がった技術です。また絵師、彫師、摺師という版元制での完全な分業化もその技術の向上に役立ちました。錦絵は美しい版画作品というだけでなく、当時の出来事を描いたものが数多くあり、ニュース性があるものでした。今日では明治の様子を伝える重要な歴史資料となっており、どのような乗物が明治の街を行き交っていたのかを知ることができます。

明治時代を代表する乗物のひとつが、人力車です。人力車の起源は諸説ありますが、明治二(一八六九)年に日本人が西洋の馬車や荷車をもとに発明したと言われ、翌年には東京での営業の許可が下りて街

中に人力車があふれました。錦絵を見ると、その様子うかがい知ることができます。一曜斎国輝の《第一大區 京橋商店 煉瓦石繁栄圖》(図1)では煉瓦造りの近代的な街並み、三代歌川広重の《東京名勝遠目鏡橋之景》(図2)では二連アーチの石橋の様子が描かれていますが、いずれも人でごった返す道



図1 第一大區 京橋商店 煉瓦石繁栄圖

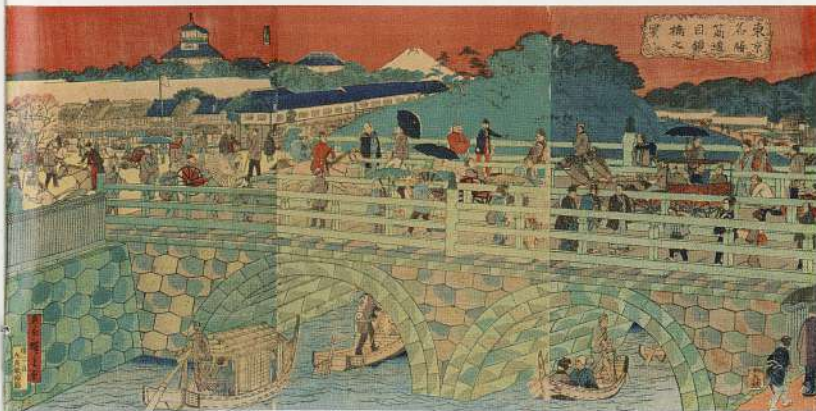


図2 東京名勝遠目鏡橋之景

を人力車が走っています。交通網や通信網が未発達時代に、手軽に使えて小回りがきく人力車は、庶民の乗物として定着し、さらに海外へ輸出される程、当時の日本を代表する重要な乗物でした。錦絵を見ると、人力車のほかにたくさんの方が乗っている馬車が見受けられます。これは「乗合馬車」と呼ばれるもので、人力車より一年早く営業許可が下りた乗物です。江戸時代まで日本では、馬に直接乗るといったことはあっても、馬に車を曳かせるということはありませんでした。馬車は西洋文化を取り入れた文明開化の乗物といえます。営業開始当初は二頭立ての馬車に六人の乗客を乗せて走っていた乗合馬車でしたが、図1の錦絵を見ると屋根があるもの、ないもの、人力車と同じような折りたたみ式の幌が付いているものなど、その形状は様々です。図2では馬車の乗客の中に中国風の衣装を身に着けた人も見られ、日本人のみでなく海外から訪れた人々にも利用されていたことがわかります。

このように一般の人々が人力車や乗合馬車を利用していったころ、明治天皇はどのような乗り物をご利用になられていたのでしょうか。月岡芳年によって描かれた《東京府京橋

之圖》(図3)によると、江戸城ご入城の際の明治天皇は、鳳凰を屋根にあしらった御輿をご利用になっています。この御輿と旗印から天皇がお乗りになっていることが想像されますが、その御姿は御簾によって隠されており、錦絵に描かれることもありませんでした。このように明治時代以前の天皇は一般人には見えない存在でした。しかし時代が下って、日本に西洋文化が取り入れられると、天皇は近代国家の君主として、全国を巡る「巡幸」を行って人々の前に姿を現すようになりました。その際に使用する乗物は、それまでの御輿から馬が曳く儀装車へと変わり、衣装も洋装へと変化します。明治二十二(一八八九)年の大日本帝国憲法

公布式に向かわれる天皇の御姿が楊洲周延の《憲法發布 宮城二重橋御出門之圖》(図4)などの錦絵に描かれています。大行列の中で豪華に装飾された儀装車にお乗りになっています。このように天皇が、豪華で近代的な乗物に乗られて街を行く様子は、当時の人々にとって近代化を象徴する景色だったと言えるでしょう。

今回は、乗物が描かれている錦絵を中心に、錦絵の発展に貢献した絵師の紹介や錦絵版木も併せて展示いたします。錦絵制作に関連する資料をご覧いただくことで、理解を深めていただければ幸いです。

さて、日本が近代化に向かう契機となったのが、嘉永六(一八五三)年のペリー率いる黒船の来航です。翌年二回目の来日を果たしたペリーが持っていたアメリカ大統領から將軍への献上品の中に、蒸気機関車の



図3 東京府京橋之圖

模型があつたと伝えられています<sup>※1</sup>。それから約二十年後、新橋―横浜間に日本初の鉄道が開通しました。今から一四〇年前の明治五(一八七二)年旧曆九月十二日のことです。それはイギリスにおいて世界初の鉄道が開発されてから五〇年後のことです。そのイギリスの指導のもとに成し遂げられたのです。開業式には明治天皇がご臨席になり、第一号車は新橋から約一時間かけて横浜へ到着しました。この鉄道開業は明治の人々に文明開化をどんなに強く印象付けた出来事だったことでしょうか。

鉄道が多くの人々の関心を引き付けたことは、錦絵に描かれている様子からも見てとることができま

す。三代歌川広重の描く《東京高輪海岸蒸気車鉄道圖》(図5)は賑やかな街を鉄道が走っている様子を描いていますが、実際の蒸気機関車とは形が大きく違います。それは、人々の鉄道への関心が高かったために短期間で制作する必要があり、実際に見ることもなくこのような画面が出来上がったのだろうと想像されます。これに対して同じ作者による《東京名所之内 新橋汐留蒸気車 鐵道局停車場之真圖》(図6)では、実際に近い形の機関車が新橋停車場の建物と共に描かれています。これらは絵師が実際に現場に行っ

※1 湯本繁一「図説 明治事物起源事典」柏書房、一九九六年  
 ※2 岩切信一郎「明治期木版文化の盛衰」(青木茂監修「近代日本版木の諸相」中央公論美術出版、一九九八年)  
 ※3 同右

秋の特別展示 錦絵に見る明治の乗物

小林清親の錦絵

小林清親は明治時代の絵師としては珍しく独学で絵を学び、版画作品としては新鮮な画風で「光線画」と呼ばれ、人気を博します。清親の作風は後の「創作版画運動」へ影響を与えました。



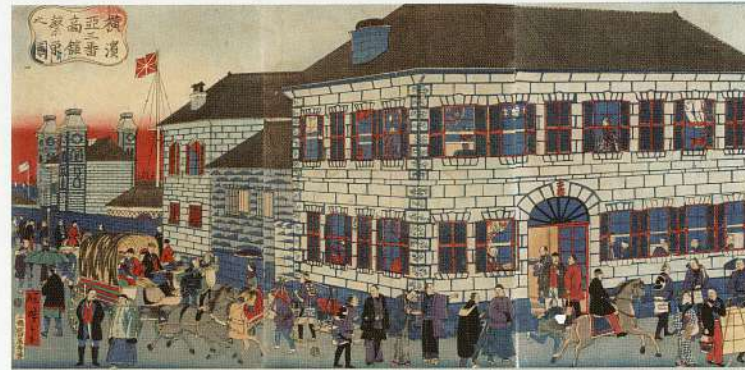
《海運橋第一銀行》明治9年



《東京銀座街日報社》明治9年



《梅若神社(雨中人力車)》年代不明



三代 歌川広重《横濱亞三番商館繁栄之圖》明治4年

横浜市中のにぎわいの中を乗合馬車が颯爽と走っています。和服の人はもちろん、中国風衣装の男性や大きく広がったスカートの女性など、外国から来たと思われる人々が多く描かれています。



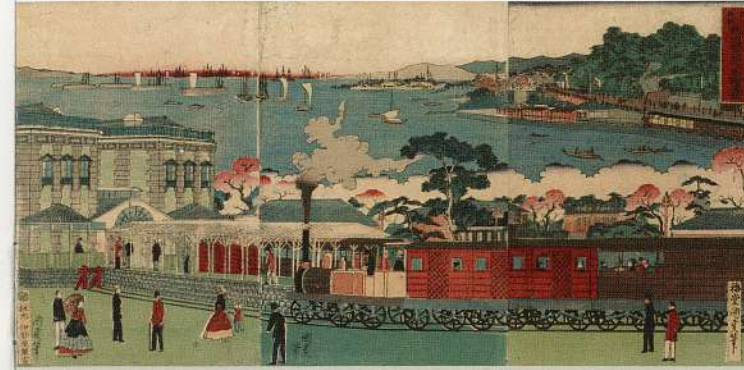
楊齋延一《帝國議會議事堂之圖》明治22年

明治23年に建てられた帝国議会仮議事堂を背景に、儀装馬車にお乗りになった天皇の御姿とそこへ行かれた皇太后が描かれています。



月岡芳年《明治小史 年間紀事 皇后宮西京行啓 鐵道館發車之圖》明治9年

皇后が多くの女官を従えて行啓する様子が描かれており、後方には皇后がお乗りになられたと思われる馬車が描かれています。



梅堂国政《東京新橋 鐵道繁榮高輪遠景》明治6年

線路のすぐそばで人々が蒸気機関車を見ている様子が描かれています。入江の向こう岸にも列車が走っています。



三代 歌川広重《東京第一名所 永代橋之真景》明治8年

明治8年に造られた永代橋の様子が描かれています。橋の上には人力車や乗合馬車も走り、当時の賑わいが感じられます。



一曜斎国輝《東京海運橋兜町 爲換座五階之圖》明治5年

日本初の国立銀行となる、後の国立第一銀行の様子が描かれています。画面の両側から中央の爲換座入口へ向けて乗合馬車や人力車がせわしく集まっています。



図4 楊洲周延《憲法發布 宮城二重橋御出門之圖》明治22年

憲法發布式典へ向かう天皇皇后両陛下の様子が描かれています。このように両陛下が並んで馬車に乗られるのはこの時が初めてであり、西欧風の夫婦像を演出しています。



図5 三代 歌川広重《東京高輪海岸蒸気車鐵道圖》明治4年

海の上で作られた線路を蒸気機関車が走る様子が描かれています。機関車の形が実際に走っていたものとは異なっています。



図6 三代 歌川広重《東京名所之内 新橋汐留蒸気車鐵道局停車館之真圖》明治12年

新橋の停車場とそこに入ってくる蒸気機関車の様子が描かれています。停車場の前には人力車が多く走っています。

※図4～6は3ページの内容に出てくる錦絵

# 御料車の 台枠・輪軸の鉄

博物館明治村では平成二十四年六月に、東海旅客鉄道株式会社より寄託を受けている昭憲皇太后御料車（五号御料車）・明治天皇御料車（六号御料車）の台車部分の塗装修理を行いました（写真1）。

御料車というと車内の美しさに目を奪われがちですが、台車部分に目を向けると、そこに使用されている鉄材から様々な刻印を見出すことができ、当時日本国内のみならず世界の鉄鋼業の状況ひいては近代化の様子を知ることができます。鉄材には製造メーカー・製作年月・型番などがわかる「ロールマーク」と呼ばれる「刻印」が付けられています。ロールマークをご紹介することで、普段は黒子のよう目立たず、そっと陰に隠れている台車を表舞台に引っ張りだしてみましよう。

度は異なります。ほとんどの場合、数年おきに交換されますので、台枠部分に比べ新しいものを取り付けられているのが一般的で、この昭憲皇太后御料車も例に漏れず、一九二二（明治四十五）大正元年のドイツKRUPP（クルップ）社製の輪軸（車輪）（写真4）が取り付けられています。

クルップ社は当時のプロイセンの炭鉄の町エッセン（Essen）（地図2）で、ライン川の水力を用いて鋼鉄の鍛造をフリードリッヒ・クルップ（KRUPP、



地図2  
上 ドイツ全図  
下 エッセン近郊

写真1 塗装修理が終了した御料車



地図1  
上 イギリス全図  
下 フローディングガム近郊

写真2 御料車台枠



## 昭憲皇太后御料車（五号御料車）

明治三十五（一九〇二）年製造

台車の台枠部分（写真2）にはFRODINGHAM IRON & STEEL Co.（フローディングガム製鋼所）と刻印（写真3）されています。

フローディングガムはイギリス中東部（地図1）の小さな村です。フローディングガムのあるイギリス中東部はシェフィールド（Sheffield）、リーズ（Leeds）に代表されるイギリス鉄鋼業の盛んな地域で、フローディングガム周辺にも小規模な鉄鋼生産地が数多くみられました。フローディングガムではすでにローマ時代に鉄鉱石が発見されていたと記録されていますが、十九世紀半ばにその存在が再発見されるまで鉄鉱石の存在はすっかり忘れ去られていました。

この大枠を製造したフローディングガム製鋼所に関する情報は多くなく、フローディングガムの鉄鉱石の存在が再発見されて間もない一八六五年に設立され、一九〇四年有限責任会社組織となり、一九一四年製鉄製鋼業者として、二千人の従業員を要する会社規模で、鉄道や電気メーカー向けの製品を生産してきました。

台車はまず取り替えられることはありませんが、車輪はその損傷の度合いによって、交換頻

## 明治天皇御料車（六号御料車）

明治四十三年（一九一〇）年製造

台枠部分にはSEITETSUSHO YAWATA Ⓞ BS 7×4と刻印されています（写真5）。これは日本初の製鉄所として開業した官営八幡製鉄所のもので、官営八幡製鉄所は明治三十四（一九〇一）年、現在の福岡県北九州市東田（旧八幡地区）に東田第一高炉に火が入り、日本初の製鉄業の口火が切られました。

ここで使用されている輪軸は1912・3のロールマークがあります。台枠はあまり取り替えられないことがないため、製造会社名しか刻印されていませんが、消耗の激しい輪軸は製造会社に加え、年月も記載されています。

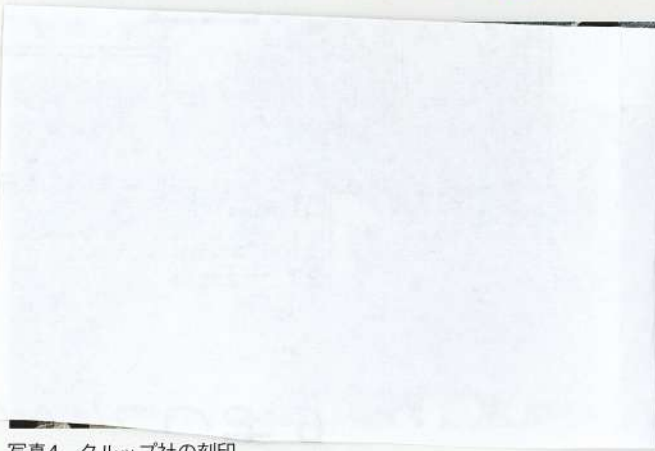


写真4 クルップ社の刻印



写真5 八幡製鉄所の刻印

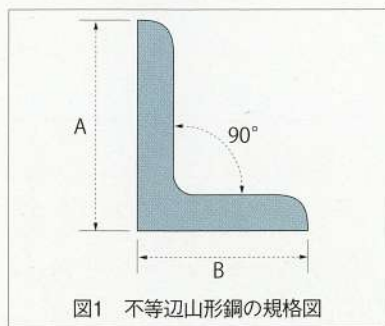


図1 不等辺山形鋼の規格図

ロールマークのⓄのSは製鉄所を表しており、周囲の形は時に変更されていますが、真ん中のSマークは今日に引継がれています。当時製造されていた鋼材の中で、この台枠に用いられていたものは、「不等辺山形鋼」（図1）と呼ばれるもので、BSの右側7×4（図1のA×B）は鋼材の寸法を表し、7（インチ）×4（インチ）であることを示しています。

写真3 フローディングガム製鋼所の刻印

# A La Meiji-mura



岡田信一郎 曾禰達蔵 ジョサイア・コンドル

明治村のSL東京駅から帝国ホテル中央玄関へ向かう通路の脇に展示されている柱に気づかれた方はいらっしゃるでしょうか。この柱は、無機質な雰囲気だった通路を明治村の北側の入口らしくしたと、平成十四年三月にリノベーションした際に展示されたものです(写真1)。

イオニア式の柱頭を持ったこの柱は、三菱二号館(写真2)の玄関のもので、業務拡張につき手狭になったため、昭和九(一九三四年)年に取り壊され、二号館の跡地に建てられた「明治生命館」(写真3)の設計者岡田信一郎が教鞭を執る東京美術学校(現東京藝術大学)へ玄関の部材のみが運ばれ保管されていたもので、平成三(一九九一年)縁あって明治村へ寄贈され、今日に至っています。



写真5 一丁倫敦のレンガ街の街並を写した絵葉書(博物館明治村所蔵)

博物館明治村には一丁倫敦の様子を知ることが出来る絵葉書が保存されています(写真5)。写真は皇居馬場先門側から撮影されたもので、写真の左手前と、建物が大きな三つの保険会社「明治生命」「明治火災」「東京海上保険」の三社が入居し、竣工前年の明治二十七年六月二十日に起こった東京を中心とした地震(東京地震)の際、石工の工事が進んでいたが、何の被害もなく建物は建っている。と報告しています。

博物館明治村には一丁倫敦の様子を知ることが出来る絵葉書が保存されています(写真5)。写真は皇居馬場先門側から撮影されたもので、写真の左手前

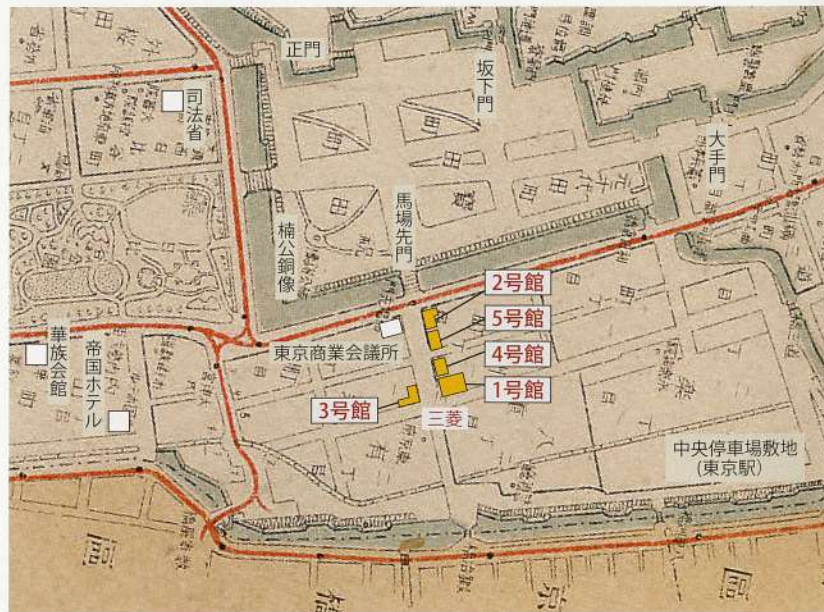


図1-2 麹町区絵葉書の部分拡大



写真2 三菱二号館



写真3 明治生命館



写真4 三菱一号館



図1-1 麹町区絵葉書(東京全図 区別番号入絵葉書 明治四十一年)

## ロンドン 一丁倫敦の記憶

● SL 東京駅からの通路 (5丁目)



写真1 左 通路全景 右 三菱二号館玄関の柱

くしたいと、平成十四年三月にリノベーションした際に展示されたものです(写真1)。

イオニア式の柱頭を持ったこの柱は、三菱二号館(写真2)の玄関のもので、業務拡張につき手狭になったため、昭和九(一九三四年)年に取り壊され、二号館の跡地に建てられた「明治生命館」(写真3)の設計者岡田信一郎が教鞭を執る東京美術学校(現東京藝術大学)へ玄関の部材のみが運ばれ保管されていたもので、平成三(一九九一年)縁あって明治村へ寄贈され、今日に至っています。

三菱二号館は明治二十八(一九九五)年、東京丸の内皇居馬場先門に相對する場所に、日本で西洋建築を教えたイギリス人ジョサイア・コンドル (Josiah Conder) の設計で建てられました。現在オフィビルが立ち並ぶ東京丸の内ですが、当時はまだ東京駅も開業しておらず、明治二十三(一九〇〇)年に三菱が陸軍省より丸の内の土地を取得したころには「三菱が原」と言われたほどでした。三菱は明治二十七(一九〇四)年に三菱一号館(写真4)を建て、丸の内のオフィスビル建設の第一歩を踏み出し、後に「一丁倫敦」と呼ばれるほどの街区を形成していくことになりました(図1)。

三菱一号館二号館について「コンドル博士遺作集」に次のように記載されています。

丸の内三菱第一号館  
東京の中心地丸之内の一部面積八万余坪は、明治二十三年三



「コンドル博士遺作集」

の煉瓦造として明治二十七年六月竣工せる第一号館なり。本館は其構造に於て、其の高さに於て、其の設備に於て、爾後或期間丸之内に於ける建築の標準となれる建築の標準となれ

れ、壮大なビルであったと思われまふ。建物のスタイルに目をやると、二号館はフランス風ルネサンス(ちなみに相對している妻木頼黄の東京商業会議所はドイツ風)そして一号館はイギリス風ゴシックと、様々な様式を取り入れ街並を形成する上で変化をもたせています。

一旦は取り壊されて新たに再建された一号館を除くと、ほとんどのビルが建て替えられてしまった丸の内界隈。三菱二号館の柱は、そこが一丁倫敦と呼ばれたことを物語る忘れ形見といえるでしょう。

※写真2・4出典 明治大正建築写真集 一九三六

# 秋の明治村

平成24年9月15日(土)～12月2日(日)

※当日の天候により延長開村中止の場合があります。

## 鉄道開業140周年記念 明治のりもの博

期間 9月15日(土)～12月2日(日)

蒸気機関車の公開 期間中

京都市電の公開 期間中

御料車の内部特別公開

■ 会期：9月15日(土)～10月21日(日)

■ 会場：鉄道局新橋工場

協力：東海旅客鉄道株式会社

公開



蒸気機関車9号



明治天皇御料車内部



蒸気機関車12号



京都市電

鉄道グッズ販売 期間中



鉄道グルメフェア 期間中

明治村鉄道遺産  
ガイドツアー

事前予約制

■ 日時：9月16日(日)・23日(日)

SL機関室搭乗体験&制服を着よう!

■ 日時：10月14日～12月2日の  
土休日

人力車乗車体験/明治の  
自転車に乗ろう! 期間中

儀装馬車の特別展示 期間中

■ 会場：菊の世酒蔵

特別展「錦絵に見る明治の乗物」

■ 会期：10月6日(土)～12月2日(日)

■ 会場：三重県庁舎

“鉄子の部屋” 期間中

明治村の鉄道関連資料を大公開!

■ 会場：三重県庁舎



名古屋電気鉄道開通記念



愛知電気鉄道時刻表

鉄道切手・絵はがきパネル展

■ 会場：宇治山田郵便局舎 期間中

協力：日本郵政株式会社

## 「きもの」で歩く明治村

11月10日(土)～12月2日(日)

※期間中、和服でご来村の方は入村料半額。

●きもの着付体験

期間中の土日祝日

■ 会場：学習院長 官舎

協力：民族衣裳文化普及協会

●紅葉コンサート

●紅葉茶席

明治の日本庭園でのお抹茶と、日本の秋の風情に似合う、さわやかなアイルランドの音楽をお楽しみください。

期間中の土日祝日

■ 会場：日本庭園



※きもの着付体験・紅葉茶席・紅葉コンサートは悪天候の場合、中止となることがあります。

## 十三夜 観月会

10月27日(土)・28日(日) 延長開村

20:00まで延長開村

十五夜について月が美しいとされる十三夜(旧暦9月13日)。

月明かりに照らされ、昼間とは趣の異なるしっとりとした明治村をお楽しみください。

歴史好きの方にオススメは、夜の1丁目をご案内するスペシャルガイドツアーや、夜間初公開となる3丁目の品川燈台・菅島燈台附属官舎エリアの明治期の灯火に用いられたアセチレンガスをを用いた灯器の点灯などです。

五感で十三夜を体感したい方には、古代から伝わる音楽と舞「邦楽の夕べ」や厳選の日本酒と肴を楽しむ「月下の美酒」、東松家住宅の茶室での「茶道体験」はいかがでしょうか。

協力：第四管区海上保安本部・(社) 燈光会・大日本アガ株式会社



点灯に使用されるアセチレンガス灯器



夜の品川燈台と菅島燈台附属官舎



邦楽の夕べ



お月見飾り

## あかりの明治村

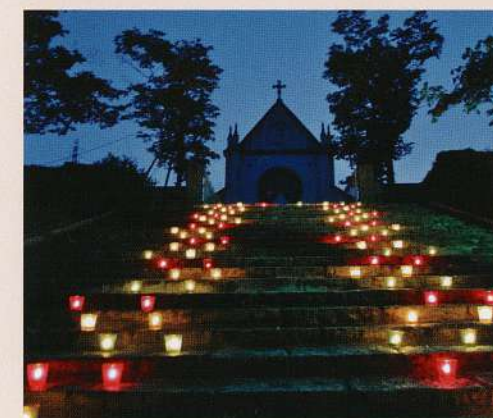
11月23日(祝)・24日(土) 延長開村

20:00まで延長開村

村内4箇所で開催される名古屋経済大学の皆さんのあかりアート「夢あかり」、錦絵行燈の「あかりの路」などで、晩秋の明治村を温かなあかりで包み込みます。

あかりと明治建築とのコラボレーションをお楽しみ下さい。

協力：名古屋経済大学



夢あかり

写真展

## 「増田 彰久 失われた近代建築」

■ 会期：9月30日(日)～11月18日(日)

■ 会場：北里研究所本館・医学館

## 明治村 子規はいく

■ 日時：9月15日(土)～12月2日(日)

## 坂の上の雲ミュージアム5周年記念 「明治村の中の松山」

■ 会期：11月23日(祝)～平成25年1月27日(日)

■ 場所：北里研究所本館・医学館 ■ 協力：松山市

## グルメイベント 秋の味覚まつり

■ 日時：9月15日(土)～12月2日(日)

明治村写真コンテスト入賞作品展

■ 会期：9月15日(土)～12月2日(日)

■ 会場：東山梨郡役所2階

秋のウェディングフェア

■ 日時：11月3日(祝)

明治村たてもの講座

■ 日時：9月29日(土)・10月27日(土)・11月24日(土)

■ 会場：第四高等学校物理化学教室

※写真はイメージです。

※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先

<http://www.meijimura.com> または 0568-67-0314